

考	備	基隊	輜重	飛行隊	高射隊	兵隊		砲	重	野戰重砲	騎砲兵隊	騎砲兵隊	騎砲兵隊
						函館、佐世保	舞鶴、鷓知						
七	一分屯大隊ヲ有スル歩兵隊ニハ本表本部定額ニ左ノ増加ス	其	第一	第四、第五、第七	射砲隊	函館、佐世保	舞鶴、鷓知	深山	横須賀、下關	第一乃至第六	第七、第八		
六	兵舎等、煖室装置ニシテ蒸氣式若ハペーパーカ等固定式構造ニ變更ヲ生シタル場合ニ在リテハ其ノ装置ノ狀況ニ應シ本表ノ定額ヲ減額ス	他											
五	三 海外派遣等、爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル留守隊本部ニハ本表、本部定額ヲ交付ス												
四	四 營外者ニハ炊事具、定額ヲ給セス												
三	五 經理部長ハ地方、狀況等ヲ酌量シ師團長ノ認可ヲ受ケ本表ノ定額ト部隊數并ハ馬數トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セサル範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告ス												
二	ハシ 新設、増設、爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル各聯隊、本部定額ハ未設、大隊本部一毎ニ五十八圓ヲ減シヨル額												
一	ニ 兵舎等、煖室装置ニシテ蒸氣式若ハペーパーカ等固定式構造ニ變更ヲ生シタル場合ニ在リテハ其ノ装置ノ狀況ニ應シ本表ノ定額ヲ減額ス												
	歩兵第二十五聯隊ニハ本表定額、外年額五百四十九圓ヲ増加ス但シ昭和六年度以降ニ於テ現在置煖爐備附ノ中隊兵舎ヲペーパーカ装置ニ變更ヲ生シタル場合ニハ其ノ完成中隊數ニ應シ年額百五十一圓ヲ減額ス												

一 一分屯大隊ヲ有スル歩兵隊ニハ本表本部定額ニ左ノ増加ス
 二 兵舎等、煖室装置ニシテ蒸氣式若ハペーパーカ等固定式構造ニ變更ヲ生シタル場合ニ在リテハ其ノ装置ノ狀況ニ應シ本表ノ定額ヲ減額ス
 三 海外派遣等、爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル留守隊本部ニハ本表、本部定額ヲ交付ス
 四 營外者ニハ炊事具、定額ヲ給セス
 五 經理部長ハ地方、狀況等ヲ酌量シ師團長ノ認可ヲ受ケ本表ノ定額ト部隊數并ハ馬數トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セサル範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告ス
 ハシ 新設、増設、爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル各聯隊、本部定額ハ未設、大隊本部一毎ニ五十八圓ヲ減シヨル額

兵舎等、煖室装置ニシテ蒸氣式若ハペーパーカ等固定式構造ニ變更ヲ生シタル場合ニ在リテハ其ノ装置ノ狀況ニ應シ本表ノ定額ヲ減額ス
 歩兵第二十五聯隊ニハ本表定額、外年額五百四十九圓ヲ増加ス但シ昭和六年度以降ニ於テ現在置煖爐備附ノ中隊兵舎ヲペーパーカ装置ニ變更ヲ生シタル場合ニハ其ノ完成中隊數ニ應シ年額百五十一圓ヲ減額ス

本達ハ昭和十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第五十三條
 第一項第三號及第八十九條第一號ノ改正規定ハ昭和十年十二月一日
 、第二表生徒被服、第四表備附被服（其ノ一）、第四表備附被服（
 其ノ二）、第四表備附被服（其ノ三）、第四表備附被服（其ノ四）
 、第十一表消耗品料、第十二表煖室用薪炭料及給與期間及第十四表
 陣營具永續料ノ改正規定ハ當該部隊ノ新設又ハ編制改正著手ノ日ヨ
 リ之ヲ施行ス

改正理由

第七條ハ特ニ在置スルノ要ナキト本條アルカ爲反ツテ在勤加俸等ノ
 支給ニ際シ疑義ヲ生スル虞アルニ依リ削除スルノ要アルニ由ル

第十六條ハ給與令ノ改正ニ伴ヒ字句ヲ修正スルノ要アルニ由ル

第二十條ノ三ハ第七條ノ削除ニ伴ヒ諸加俸ノ支給方ニ關シ規定スルノ要アルニ由ル

第三十四條ハ二ハ一度營外居住ト爲リタル者ハ再ヒ營内居住ニ復ス

ルルコトナキニ依リ修正ノ要アルニ由ル又ハ編制及五等年ノ日ニ

第五十三條第二項及第四表以下ハ昭和十年軍令陸乙第三號陸軍平時

其編制ノ改定ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル(其ノ四)

第五十三條、第八十九條及第九十二條ハ二期入營制ノ廢止及青年學

校令ノ編定ニ伴ヒ改正ノ要アルト幹部候補生轉屬後ヲ定額ヲ算定

本方チ明瞭ナラシム其ノ他字句ヲ修正スルヲ要アルニ由ル(五十三)

第五十三條ノ二ハ海外派遣者等ノ被服費定額増減方ニ關スル大正十

一年陸普第一七五七號ヲ本細則ニ統合スルヲ適當トスルニ由ル
第五十七條ノ二ハ第五十三條及第五十三條ノ二ノ改正ニ伴ヒ改正ノ
要アルニ由ル

第六十六條ハ營外下士官ノ被服料支給ニ當リ其ノ勤務月數ノ算定方
ヲ規定スルノ要アルニ由ル

第七十五條ノ二ハ平時編制ノ改定ニ伴ヒ野砲兵第二十五聯隊ハ山砲
兵聯隊トナリタルモ該隊ノ中十五榴大隊ノ保管馬ハ従前通乙號馬
ト爲シ置クノ要アルニ由ル

陸軍給與令細則新舊對照

第七條 (俸給ト稱スルトキハ准士官以上俸給、下士官兵給料、諸生徒手當金其ノ他總テノ加給俸ヲ包含シ准士官以上俸給ト稱スルトキハ總テノ加給俸ヲ包含シ下士官兵ノ給料ト稱スルトキハ諸加俸ヲ包含ス)

削除

第十六條 下士官上等兵禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ懲罰令其ノ他ニ依リ官(職)ヲ失ヒ若ハ免セラレ兵トナリタル者ハ其ノ當日ヨリ兵ノ給料ヲ給ス
第三十條ノ三 前由條ノ諸加俸ノ支給ニ付テハ俸給又ハ給料ニ關スル規定ヲ準用ス

第三四條ノ二 (退營賜金ヲ受ケ營外居住ニ轉シ再ヒ營
内居住ト爲リタル者ノ退營賜金給額ハ前後ニ於
ケル在營年数ヲ通算シ之ニ相當ノ金額ヨリ前支給額
ヲ控除シテ之ヲ得豫備役、後備役下士官ニシテ再
ヒ現役ニ就キ營内居住ト爲リタル者ノ退營賜金
ニ付亦同シ)

士官 豫備役、後備役下士官ニシテ再ヒ現役ト爲リ
營内ニ居住スル者ノ退營賜金額ハ前後ニ於ケル
在營年数ヲ通算シ之ニ相當スル金額ヨリ前ニ支
給シタル額ト控除シタル額トス
第二項、三項 省略

第五十二條 本令第三十條ノ服裝手當八一回限リ辭令
交付ノ廳ニ於テ之ヲ給ス

(本令第三十條ニ於テ中隊ニ準スルモノトハ機關銃隊、
裝甲自動車隊、野砲兵聯隊、高射砲隊、照空隊、
固定無線隊、整備隊、下士官候補者隊、步兵學
校、步兵砲隊、同通信隊、同戰車隊、騎兵學校、無
線電信教習隊、野戰砲兵學校、高射砲隊及重砲兵
學校練習生隊ヲ謂フ)

本令第三十條ニ於テ中隊ニ準スルモノトハ機關銃隊、
步兵砲隊、野砲兵聯隊、高射砲隊下士官候補者隊、明野陸軍飛行學校、下
士官候補者隊及濱松陸軍飛行學校、下士官候補

者隊ヲ除キ、固定無線隊、整備隊、步兵學校通信隊、同戰車隊、騎兵學校無電通信隊、同裝甲自動車隊、野戰砲兵學校情報隊、重砲兵學校練習生隊、濱松陸軍飛行學校練習隊及自動車學校練習隊ヲ謂フ

第三項、四項略

第五十三條 軍隊、憲兵隊、教化隊、諸學校、病院及被服廠ニ在リ各號ノ定額ニ依リ第一表、第三表乃至第四表ノ被服ヲ新調（第十二號ニ係ルモノハ新調修理セシム）

第一號 略

第三十條、期禁手當ハ一回限リ略ス

二期入營部隊(第四號ニ該當スルモノヲ除ク)ノ歩兵兵
步兵兵(第三號ニ該當スルモノヲ除ク)ニ在リテハ其ノ定
員ノ二分ノ一ニ應ジ下士官兵被服年額及特種被服
年額並ニ同定員ノ二分ノ一ニ應ジ下士官兵被服年
額ノ半額及特種被服年額ノ三分ノ二ヲ交付ス
(三期入營部隊ノ歩兵兵ニ在リテハ其ノ定員ノ四分ノ
三ニ應ジ下士官兵被服年額及特種被服年額ヲ
交付ス)

削除

(四)三路

(五)四歩兵兵看護兵及磨工兵ニシテ歩兵下士官

五 候補者、各部下士官候補者及青年訓練未修了者

四、同檢定不合格者等在營期間ヲ短縮セザルモ

ノニ在リテハ其ノ短縮セザル在營月數及人員ニ應ジ

下士官兵被服年額及備附被服年額ノ各月割額

並ニ特種被服年額ノ三分ノ一ヲ交付スル事

(六) 五 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍

(七) 六 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍

(八) 七 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍

(九) 八 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍

(十) 九 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍 陸軍

(十一) 十 甲種 幹部 候補 生 (之ヲ要員タル幹部候補

本文略

生及兵ヲ含ム以下同シニ在リテハ入營當日(入
營後他部隊^{アリ}轉屬タルトキハ其後^{アリ}轉屬當日
一)ノ現人員ト在營月數トニ應^ルシ下士官兵
被服年額及特種被服年額ノ各月割額ヲ交
付ス但シ下士官兵被服ノ兵ノ額ニ依ル

(二十二)

(二十三)

本文略

第二項略

第五十七條

本令第五十條

八甲種幹部候補生、短期現役兵、看護兵、磨工兵、
補助看護兵、召集中、歸休兵、豫備役、後備役

二在儿准士官以上下士官以下及補充兵ニ限リ入營當日
(入營當由後他部隊ニ轉属期タルトキハ其後ハ轉属當
日)ノ現人員ト給與月数トニ應ジ第十表及第十
四表ノ年額ノ月割額ヲ交付ス但シ召集期間一月未
滿者ニ在リテハ第十一表及第十四表ノ當該定額ヲ交
付ス

第二項 略

第五十三條之三 軍隊ニシテ編制改正、海外派遣等ノ
爲定員ニ不足又ハ超過シタル間ニ於ケル被服費定額
ハ留中隊又ハ廢置部隊ノ定員タル場合ハ第五十三條
第一項第一號第三號ノ規定ニ依リ其ハ他ノ場合ハ左

ノ區分ニ依ル

一 海外派遣等ノ爲定員ニ不足ヲ生シタルトキハ其ノ

人員及派遣月數(出發ノ翌月ヨリ歸著ノ當月迄)

ニ應シテ下士官兵被服、特種被服及備附被服

(寢具)ノ各年額ノ月割額ヲ減ス

ニ 編制改正其ノ他ニ依リ一時定員ニ超過シタルト

キハ其ノ人員及在營月數(過員トナリタル翌月

ヨリ定員ニ編入又ハ轉出ノ當月迄)ニ應シテ下士

官兵被服、特種被服及備附被服ノ各年額ノ

月割額ヲ交付ス

第六十六條 營外居住ノ下士官ニ第八表ノ被服料ヲ

給_レ支給_レ被服ヲ保續セシム
前項ノ被服料ハ毎年三月下旬其ノ勤務月数ニ應_レシ
年額又ハ年額ノ月割額ヲ給ス但_レ士官若ハ准士官
ニ進級_レ現役満期ト爲リ又ハ死亡シタルトキハ其
ノ際之ヲ給ス

前項勤務月数ノ算定ニ付テハ第五十二條第四
項ノ規定ヲ準用ス

(前二項)第一項及第二項ノ規定ニ依ル被服料ニ付
テハ戰時給與ニ関スル規定ニ依リ被服ノ現品給與
ヲ受ケタルトキハ現品給與ノ翌月ヨリ現品給與停止
ノ月ニ至ル月数ニ應スル月割額ヲ控除ス

第七十五條ノ二 本令第二十一表馬糧定量ノ支給區分

左ノ如シ。

甲號 騎兵學校、野戰砲兵學校、騎砲兵隊、

保管馬

乙號 騎兵隊、野戰重砲兵隊以上各旅團司令部又會、野砲兵

隊、山砲兵隊十五榴大隊ニ限ル、教導學

校騎兵學生隊、同砲兵學生隊ノ保管馬

丙號 前各號ノ區分ニ入ラズル部隊ノ保管馬

第八十九條 本令第四十八條及第四十九條ノ消耗品料、

煖室用薪炭料及陣營具永續料ハ各隊本部並ニ

定人馬數ニ應ジテ第十一表、第十二表及第十四表ノ

定額ヲ交付ス但シ兵人員ニ應スル定額ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ算定ス

一歩兵兵及看護兵ニ在リテハ其ノ定員ノ四分ノ三ニ應シ年額ヲ交付ス但シ一期入營部隊ノ煖室用ニ薪炭料ハ定員ノ二分ノ一ニ應シ年額ヲ同定員ノ二分ノ一ニ應シ一月以降ノ給與月數(端月ハ切上ク以下同シ)ニ應スル年額ノ月割額(當該給與期間ニ相當スル月數ニテ年額ヲ除シタル額以下同シ)ヲ交付ス

步兵兵及看護兵ニ在リテハ消耗品料及陣營用具永續料ハ其ノ定員ノ四分ノ三ニ應シ年額ヲ煖室用薪炭料ハ其ノ定員ノ二分ノ一ニ應シ年額ヲ同定

員ノ三分ノ一ニ應シ入營當月以降ノ給與月數（
端月ハ切上ク以下同シ）ニ應スル年額ノ月割額（
當該給與期間ニ相當スル月數ニテ年額ヲ除シ
又ル額以下同シ）ヲ交付ス但シ近衛師團各部隊
ノ煖室用薪炭料ハ定員ニ應シ年額ヲ交付ス
第二號、三號、四號 略

第一表 下士官兵被服

省略

省略

備 (一)軍衣及外套 (二)別 (三)肩章 (四)組ヲ添附ス)

考
 (一) (二) (三) (四) (五) (六)
 一 二 三 四 五

第二表 生徒被服

備考	工科學校生徒	幼年學校生徒			士官學校豫科生徒			戸山學校軍樂生徒			航空技術學校技術生徒			所澤飛行學校操縱生徒 (熊谷飛行學校操縱生徒)			通信學校			區	品	給	分	期	限	目
		三年	二年	初年	三年	二年	初年	三年	二年	初年	四年	三年	二年	初年	三年	二年	初年	三年	二年							
																										軍帽
																										軍帽
																										軍衣袴
																										冬衣袴
																										夏衣袴
																										外褂
																										防雨外褂
																										襟布
																										冬襦袢袴下
																										夏襦袢袴下
																										手袋
																										靴下
																										編上靴
																										卷脚絆
																										營內靴
																										革脚絆
																										拍車
																										工作衣
																										業袴
																										軍隊手牒

一士官學校豫科生徒中幼年學校ヨリ入校者ニ付テハ軍隊手牒ヲ除ク
 二幼年學校生徒中自費生ニ在リテハ營内靴、雜巾、水筒及被服手入具ヲ除ク以外ノ被服ハ短期現役兵及自費生諸費ヨリ
 防雨外褂、營内靴、雜巾、水筒及被服手入具ヲ除ク以外ノ被服ハ短期現役兵及自費生諸費ヨリ

教 化 隊	隊大兵重					氣 球 隊	隊聯行飛					電 信 隊	鐵 道 隊	鐵 道 隊	隊大兵二			高 射 砲 隊	高 射 砲 隊	隊兵重		隊兵重		隊兵重			騎 砲 兵 隊	獨 立 山 砲 兵 隊	山 砲 兵 隊	
	第 八 第 十	第 七	第 四、 第 五、 第 十六	第 二、 第 六	第 一		近衛、第三、第九、第十一、第十四、第十八	第 一	第 二	第 一	第 二				第 一	第 一	第 一			第 二	第 一	第 二	第 三	第 四	函 館、 佐 世 保	舞 鶴、 鷄 知				深 山
一 二 八	四 三 二	四 六 八	四 五 〇	四 八 四	五 〇 〇	三 八 四	八 六 五	七 四 七	四 九 一	三 六 七	四 三 五	〇 六 二	一 五 七	一 二 七	一 二 二	四 七 七	三 四 六	四 七 六	九 一 〇	四 四 六	三 三 六	五 八 六	八 一 三	五 四 五	八 九 八	六 〇 四	一 六 八	三 四 一	五 七 四	一 〇 三 一

氣球隊 第七

近衛、第三、第九、第十一、第十四、第十八

第一、第二、第六

第四、第五、第十六

第八、第十七

教隊 一、二、八

被服廠 一、七

運輸部 一、四〇

步兵學校 一、三、七、三

騎兵學校 一、四、五、七

野戰砲兵學校 一、八、五、三

重砲兵學校 一、四、四、三

工兵學校 一、六、六、四

通信學校 一、五、五、〇

飛行學校 一、二、二、五

航空技術學校 一、五、三、三

自動車學校 一、一、五、九

志野學校 一、三、五、九

右山學校 一、三、四、四

士官學校 一、三、四、四

幼年學校 一、四、二、九

教導學校 一、四、二、九

豐橋本 一、六、八、四

醫學科學校 一、七、七、〇

運輸部、敷布及枕(覆共)ハ患者用トス

考	備	教 導 學 校			幼 年 學 校	士 官 學 校	戶 山 學 校	習 志 野 學 校	自 動 車 學 校	航 空 技 術 學 校	濱 松
		熊 本	豊 橋	仙 台							
シ 増 加 ス ル コ ト ヲ 得	一 運 輸 部 ノ 敷 布 及 枕 (覆 共) ハ 患 者 用 ト ス										
ヲ 含 ム) ニ 要 ス ル 被 服	二 輜 重 兵 隊 、 電 信 隊 、 飛 行 隊 及 被 服 本 廠 ノ 被 服										
ハ 入 營 當 日 現 人 員 ニ 應	三 諸 學 校 教 導 隊 、 練 習 隊 基 幹 兵 殘 留 ニ 要 ス ル 被 服										
ス	ハ 其 ノ 人 員 ニ 應 シ 殘 留 ノ 月 數 間 増 加 ス ル コ ト ヲ										
六 步 砲 兵 無 線 電 信 教 習 所 ノ 被 服	四 電 信 第 一 聯 隊 定 數 中 ニ ハ 軍 用 鳩 通 信 術 修 業 兵										
ニ 加 フ ル コ ト ヲ 得	五 蚊 帳 ノ 定 數 ハ 一 人 用 ノ モ ノ ニ 依 ル 二 人 以 上 ノ モ										
七 甲 種 幹 部 候 補 生 (之 力 要 員)	六 供 用 ス ル 被 服 六 十 人 分 ヲ 含 ム										
ハ 入 營 當 日 現 人 員 ニ 應	七 甲 種 幹 部 候 補 生 (之 力 要 員)										
ハ 入 營 當 日 現 人 員 ニ 應	七 甲 種 幹 部 候 補 生 (之 力 要 員)										

シ 増 加 ス ル コ ト ヲ 得 (入 營 後 他 部 隊 轉 属 兵 士 八 名 獲 得 轉 属 日)

工 科 學 校	醫 學 校	熊 本	豊 橋	仙 台	幼 年 學 校	士 官 學 校	戶 山 學 校	習 志 野 學 校	自 動 車 學 校	航 空 技 術 學 校	濱 松
二 七 七	九 〇	六 八 四	四 五 九	二 七 一	四 二 九	三 〇 七	三 四 四	三 五 一	一 五 九	五 三 三	二 三 三

第四表 備附被服 (其ノ三)

(朱書) 中身加

考備	士官	航空技術學校	飛行學校					飛行聯隊						區				
			濱松	明野	下志津	熊谷	所澤	第7	第5	第4	第3	第2	第1	分限	品目			
研究部 飛行第五聯隊 所用スルモノトス	官學校	航空技術學校														年八	帽	航空
																年六	種一第	巾頭航空
																年六	種二第	
																年二	種一第	面覆航空
																年一	種二第	
																年四	種一第	服航空
																年三	種二第	
																年三	種一第	袋手航空
																年三	種二第	
																年一	種一第	手ヤメ航空
																年一	種二第	
																年六	卷襟	航空
																年二	種一第	靴航空
																年三	種二第	
																年四	鏡眼	航空
年十	面	航空																
年六	巾頭	航空熱電																
年六	服	航空熱電																
年四	袋手	航空熱電																
年二	袋足	航空熱電																
年四	器	抗抵																
年二	種一第	服浮航空																
年二	種二第																	
年十	具	浮航空																

戰車隊	氣球隊	騎近衛	兵	隊	野砲兵隊、山砲兵隊	獨立山砲兵隊	騎砲兵大隊	騎砲兵隊	野戰重砲兵隊	重砲兵隊	砲深山	兵函館、佐世深	隊舞鶴、鷄知	高射砲隊	飛行隊	輜重隊	兵隊	備
六八〇	九三三	三五七	二九一	五七六	四八六	二九一	二二二	五〇六	四九八	四七一	二六一	二五二	三九六	七六八	五七六	二六一	二六一	二六一
二〇〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇
九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇	九千〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

一分屯大隊ヲ有スル歩兵隊ニハ本表本部定額ニ左ノ如ク増加ス
 二 新設、増設、爲全隊ヲ成サシムル間ニ於ケル各聯隊、本部定額ハ未設、大隊本部一毎ニ五十八圓ヲ減シ、九額

牛島

決行指定

局長在

決裁指定

十年

保存期限

政務次官
回付

決裁前
連帶
課名

決行(決裁)後
回覽課名

房官臣大	課局務主
了結	領受
昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日
昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日

監第一〇二號

大臣委

次官

委

高級副官

牛島

主務副官
官房御用掛

主務課員

件名

陸軍給與令細則中改正ニ関スル件

武第一〇二九號

起元應(課)名

監查課

合計

政務次官

參與官

書記官

審案
筆記者

主務局長

主務課長

主務課員

陸

軍

副官ヨリ陸軍一般一通牒

今般陸達第三十四號ヲ以テ改正相成タル陸軍給與令
細則第二表、第四表(其ノ一)、第四表(其ノ二)、第四
表(其ノ三)、第四表(其ノ四)、第十四表及陸達第三十六號
ヲ以テ改正相成タル朝鮮滿洲駐劄陸軍部隊給與
令細則第九表ノ五ハ別紙ノ通ニ付通牒ス

陸普第六二五四號 昭和十年十月卅一日

(甲)

陸軍給與令
陸軍給與令
陸軍給與令

第二表 生徒被服

備考	工科學校生徒	幼年學校生徒			士官學校豫科生徒			戸山學校軍樂生徒			航空技術學校技術生徒			熊谷飛行學校操縱生徒			通信學校			區	品	給	興	分	期	限	目
		三年	二年	初年	三年	二年	初年	三年	二年	初年	四年	三年	二年	初年	三年	二年	初年	三年	二年								
				一			一			一											軍帽						
						一															軍帽						
				一						一											軍袴衣						
						一															冬袴衣						
						一															夏袴衣						
						一															外套						
						一															防雨外						
						一															襟布						
						一															冬襦袢袴下						
						一															夏襦袢袴下						
																					手袋						
																					靴下						
																					編上靴						
																					卷脚絆						
																					營內靴	二年					
																					革脚絆	二年					
																					拍車	六年					
																					作衣	三年					
																					業袴	三年					

備考
 一 士官學校豫科生徒中幼年學校ヨリ入校ノ者ニ付テハ軍隊手牒ヲ除ク
 二 幼年學校生徒中自費生ニ在リテハ管内靴、雜囊、水筒及被服手入具ヲ除ク以外ノ被服ハ短期現役兵及自費生諸費ヨリ

備	獸醫	工科	教導學校			幼年學校	士官學校	左山學校	習志野學校	自動車學校	航空技術學校	飛行學校				通信學校	工兵學校	重砲兵學校	野戰砲兵學校	騎兵學校	步兵學校	運輸部	被服廠	教化隊	大隊		
			熊	豊	仙							濱	明	下	熊										所	第	第
九〇	二七	六八	一四	七	四二	二〇	三四	三五	一五	五三	一三	一九	二二	一〇	六六	四四	一一	四三	一三	一四	一四	一二	四三	四六	四五		

一運輸部ノ敷布及枕(覆共)ハ患者用トス
 二輜重兵隊、電信隊、飛行隊及被服本廠ノ被服ハ
 本表定數ノ外分遣者ニ應ニ増加スルコトヲ得
 三諸學校教導隊、練習隊基幹兵殘留ニ要スル被服
 ハ其ノ人員ニ應ニ殘留ノ月數間増加スルコトヲ

航空技術學校	五三三
自動車學	一五九
志野學	三五五
山學	三四四
士官學	二〇二五
幼年學	四二九
教導學	七七一
豐橋	一四五七
熊本	六八四
醫學	二七七
醫學	九〇

備

考

一 運輸部ノ敷布及枕(覆共)ハ患者用トス

二 輜重兵隊、電信隊、飛行隊及被服本廠ノ被服ハ本表定數ノ外分遣者ニ應ニ増加スルコトヲ得

三 諸學校教導隊、練習隊基幹兵殘留ニ要スル被服ハ其ノ人員ニ應ニ殘留ノ月數間増加スルコトヲ得

四 電信第一聯隊定數中ニハ軍用鳩通信術修業兵ニ供用スル被服六十人分ヲ含ム

五 蚊帳ノ定數ハ一人用ノモノニ依ル二人以上ノモノヲ用フルトモハ之ニ應ニ箇數ヲ減スルモノトス

六 歩、砲兵無線電信教習所ノ被服ハ最寄軍隊ノ定數ニ加フルコトヲ得

七 甲種幹部候補生(之カ要員タル幹部候補生及兵ヲ含ム)ニ要スル被服ハ(入營當日)ノ現人員ニ應ニ増加スルコトヲ得

(入營後他部隊ニ轉属シタルトキハ以後ハ轉属當日)

第四表 備附被服 (其ノ三)

備考	士官學校	飛行學校					氣球	飛行聯隊						區		
		濱松	明野	下志津	熊谷	所澤		第七隊	第五隊	第四隊	第三隊	第二隊	第一隊			
飛行第五聯隊ノ定數一、一、二、中二、〇及同定數六、中三八航空技術研	五												八年	帽	航空	
	五												六年	種一第	巾頭航空	
	五												六年	種二第		
	五												二年	種一第	面覆航空	
	五												一年	種二第		
	五												四年	種一第	服航空	
	五												三年	種二第		
	五												三年	種一第	袋手航空	
	五												三年	種二第		
	五												一年	種一第	手ヤメ航空 袋スリ航空	
	五												一年	種二第		
	二												六年	卷襟	航空	
	二	一	二	一	二	二	二	一	一	九	七	五	七	三年	種一第	靴航空
	二	八	五	〇	三	六	三	九	一	二	〇	一	四	三年	種二第	
	二	〇	〇	〇	〇	五	六	九	二	二	七	一	四	四年	鏡眼	航空
二	三	三	二	三	四	四	八	四	二	二	二	四	十年	面	航空	
二	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	六年	巾頭航空	熱電	
二	一	二	一	一	二	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	六年	服航空	熱電	
二	五	〇	〇	五	〇	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四年	袋手航空	熱電	
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二年	袋足航空	熱電	
二	二	〇	〇	五	〇	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四年	器抗	抵	
二	六	二	一	六	二	二	三	一	〇	八	八	四	四年	種一第	服浮航空	
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二年	種二第		
二	六	二	一	六	二	二	三	一	〇	八	八	四	四年	具浮	航空	



第九表ノ五 陣營具永績料

名	稱	年		額	
		第十九師團、關東軍下	第二十師團下	一月未滿、召集者額	
本部	兵舎具 炊事具 厩具	每一人	每一人	每一馬	每一人
		每一馬	每一馬	每一馬	每一人
本部	本部	每一人	每一人	每一馬	每一人
步兵 第七十三乃至第七十五、第七十九、第七十八	第八十	一、一八八 一、四四〇 〇、九六〇 七、八〇〇	一、二七〇 一、三二〇 〇、八四〇 七、〇八〇	一、二七〇 一、三二〇 〇、八四〇 七、〇八〇	一、二七〇 一、三二〇 〇、八四〇 七、〇八〇
騎兵隊	第五四六	一、八〇〇 一、〇八〇 七、八〇〇	五、三三四 一、七四〇 〇、九六〇 七、三三〇	五、三三四 一、七四〇 〇、九六〇 七、三三〇	〇、〇八〇 〇、〇六〇
野砲兵隊	一二〇〇	一、八〇〇 一、〇八〇 七、九二〇	一、〇五八 一、七四〇 〇、九六〇 七、三三〇	一、〇五八 一、七四〇 〇、九六〇 七、三三〇	〇、〇八〇 〇、〇六〇
山砲兵隊	五〇七	一、八〇〇 一、〇八〇 七、九二〇	四、七七七 二、七〇〇 七、三三〇	四、七七七 二、七〇〇 七、三三〇	〇、〇八〇 〇、〇六〇
重砲兵隊	五三七	一、八〇〇 一、〇八〇 七、九二〇	五、二二五 一、六二〇 〇、九六〇 七、〇八〇	五、二二五 一、六二〇 〇、九六〇 七、〇八〇	〇、〇八〇 〇、〇六〇
工兵隊	一一七六	一、八〇〇 一、〇八〇 七、九二〇	一、二二五 一、七四〇	一、二二五 一、七四〇	〇、〇八〇 〇、〇六〇
飛行隊					

一 分屯大隊ヲ有スル歩兵隊ニハ三百四十二圓、分屯高射砲隊ヲ有スル野砲兵隊ニハ百四十圓
 本表ノ本部定額ニ増加ス

- 二 新設増設ノ爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル聯隊ノ本部定額ハ未設ノ大隊本部一毎ニ六十四圓ヲ減シタル額トス
- 三 海外派遣等ノ爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル留守隊本部ニハ定額ヲ交付ス
- 四 師團經理部長ハ地方ノ狀況等ヲ酌量シ師團長ノ認可ヲ受ケ本表ノ定額ト部隊数並ニ人馬数トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セサル範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 五 營外者ニハ炊事具ノ定額ヲ給セス
- 六 兵舎等ノ暖室装置ニシテ蒸氣式若ハペーチカ等固定式構造ニ変更ヲ生シタル場合ニ在リテハ其ノ装置ノ狀況ニ應シ本表ノ定額ヲ減額ス

陸達第三十六號

朝鮮滿洲駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

昭和十年十月三十日

陸達第三十六號

陸軍大臣

官報照合

第十條 營外居住ノ下士官以下ヲ宿舍其ノ他ノ關係ニ依リ營内ニ居住セシムル場合ニ在リテモ其ノ給與ハ總テ營外居住ノ例ニ依ル

第一表在勤加俸中

一、二等兵
同級兵

ヲ

一、二等兵
同級兵
幹部候補生

ニ改メ同表

備考第五號ヲ削リ第六號ヲ第五號トス
第五表備附被服（其ノ一）中

第五表 備附被服（其ノ二）中

飛行聯隊	
	六九一八
	二〇
	四八七
	八七
	二二

飛行聯隊	
第九	第六
六〇一八	六九一八
一八	二〇
六六〇	四八七
六〇	八七
三〇	二二

改 第九表 消耗品料中

飛行隊	工兵隊	重砲兵隊	野砲兵隊
	四〇八	三七二	六二四
	四	五	
	五六〇	〇四〇	
六一八	三四八	三一二	五六四
四四四〇	三九六〇	四四四〇	

（小林又七印行）

陸軍

野砲兵隊	山砲兵隊	重砲兵隊	工兵隊	飛行隊
	八〇四	三七二	四〇八	一、一五二
		五	四	五
	〇四〇	〇四〇	五六〇	〇四〇
五六四		三一二	三四八	六一八
四四四〇		四四四〇	三九六〇	四四四〇

二、龍山、東城、改ム

第九表ノ二煖室用薪炭料及給與期間中

歩兵隊	騎兵隊	野砲兵隊	重砲兵隊	工兵隊	飛行隊
三、二八三	二、二四七	三、六四四	一、九二五	二、一六三	
		八			
		六八〇			
二、六六〇	一、八二〇	三、〇三五	一、五五四	一、七五七	
		七			
		〇〇〇			
二、九二六					三、一四三
七		七			七
九一〇		九一〇			九一〇

考

- 二 新設増設ノ爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル附隊ノ本部定額ハ未設ノ大隊本部一毎ニ六十四圓ヲ減シタル額トス
- 三 海外派遣等ノ爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル留守隊本部ニハ定額ヲ交付ス
- 四 師團經理部長ハ地方ノ狀況等ヲ酌量シ師團長ノ認可ヲ受ケ本表ノ定額ト部隊数並ニ人馬数トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セサル範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 五 管外者ニハ炊事具ノ定額ヲ給セス
- 六 兵舎等ノ暖室装置ニシテ蒸氣式若ハペーチカ等固定式構造ニ変更ヲ生シタル場合ニ在リテハ其ノ装置ノ狀況ニ應シ本表ノ定額ヲ減額ス

陸軍

附則

本達ハ昭和十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第五表(備附被服)ノ一、第五表(備附被服)ノ二、第九表(消耗品)ノ二及第九表(消耗品)ノ五ノ改(備附被服)正規定ハ當該部隊ノ新設又ハ編制改正著手ノ日ヨリ之ヲ施行ス(備附被服)

改正理由

第十條ハ字句ヲ修正スルノ要アルニ由ル

第一表ハ幹部候補生ニモ在勤加俸ヲ支給スルノ要アルニ由ル

第五表（其ノ一）、第五表（其ノ二）、第九表、第九表ノ二及第九

表ノ五ハ昭和十年軍令陸乙第二號平時編制ノ改定ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル

朝鮮滿洲駐劄陸軍部隊給與令細則新舊対照

第十條

(隊附下士官ニシテ營外居住タリシ者ヲ宿舍其ノ他

ノ關係ニ依リ營内ニ居住セシムルトキ其ノ給料ハ舊ニ依ル)

營外居住ノ下士官以下ヲ宿舍其ノ他ノ關係ニ因リ營内ニ居住セシムル場合ニ在リテモ其ノ給與ハ總テ營外居住ノ例ニ依ル

第五表 備附被服(其二)

省略



練

習

用

作業用

運轉用

(飛行聯隊)	飛行第六	聯隊第九
(六九)	六九	六〇
(二八)	一八	二〇
(三〇)	四八	六〇
(四六)	六〇	六〇
(六七)	六〇	六〇
(六七)	六〇	六〇
(三三)	三二	三〇

考備

省略

第九表 消耗品料

名 稱	年		額
	本部	每 一人	
野砲兵隊	(六二四)	(五〇)	五六四
山砲兵隊	八〇四	五〇	四〇〇
重砲兵隊	三七二	五〇	三一二
工兵隊	四〇八	四〇	三四八
飛行隊	二一五〇	(五〇)	六一八
			四〇〇
			一六八〇
			〇二二〇

第九師團關東軍下
本部 每一人
第二十師團下
本部 每一人

每 一 馬

一月未滿、召集者額

備 一、二、三、四 (省略)
五 本表外洗濯湯沸用薪炭料トシテ管内居住下士官以下現員ニ應シ左ノ期間一人月額ヲ給ス但シ經理部長ハ地方ノ状況等ヲ酌量シ師團長ノ認可ヲ受テ本月額及期間ト現員トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セザル範圍ニ於テ各師團地ノ月額ヲ定メ又ハ期間ヲ伸縮スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ月額及期間ヲ陸軍大臣ニ報告スル

考 小舞山、真珠、大邱、大田、馬山屯在隊
六、七、八 (省略)

昭和十一年十一月ヨリ翌年五月迄
昭和十一年十二月ヨリ翌年三月迄

第九表ノ二 煖室用ノ新炭料及給與期間

考備	自一月	自一月	給與期間	飛行隊	工兵隊	重砲兵隊	山砲兵隊	野砲兵隊	騎兵隊	步兵隊	名		年
											稱	額	
省略	大邱、大田、馬山	羅南、咸興、會寧、平壤、旅費順水龍山、東城	衛	八七八八	二、一六三	一、九二五	五、七四七	(三、六四四)	二、二四七	三、二八三	本部	第九師團軍下	年
											每	八六〇	
											一	八六〇	
											本	二、六六〇	
											部	一、八二〇	
											每	七〇〇	
											一	七〇〇	
											本	三、九二六	
											部	(七、四九一)	
											每	七	
											一	九一〇	
											人	七	
人	九一〇												
額	三、一四三	七	九一〇										

第九表ノ五 陣營具永績料

名 稱	第十九師團、關東軍下		第二十師團下		額
	年	額	年	額	
步兵 第七十三乃至第七十五、第七十九、七十八	本部	一一八八	本部	一一七〇	兵舍具 炊事具 厩具
	兵舍具	一四四〇	兵舍具	一三二〇	
騎兵 隊	本部	五四六	本部	五三四	兵舍具 炊事具 厩具
	兵舍具	一八〇〇	兵舍具	一七四〇	
野砲兵 隊	本部	二〇九二	本部	一〇五八	兵舍具 炊事具 厩具
	兵舍具	一〇八〇	兵舍具	〇九六〇	
山砲兵 隊	本部	一一〇〇	本部	四七七	兵舍具 炊事具 厩具
	兵舍具	一八〇〇	兵舍具	二七〇〇	
重砲兵 隊	本部	五〇七	本部	四七七	兵舍具 炊事具 厩具
	兵舍具	一六八〇	兵舍具	〇九六〇	
工兵 隊	本部	五三七	本部	五二五	兵舍具 炊事具 厩具
	兵舍具	一八〇〇	兵舍具	一七四〇	
飛行 隊	本部	一一七六	本部	一一二五	兵舍具 炊事具 厩具
	兵舍具	一八〇〇	兵舍具	一七四〇	
<p>一月未滿、召集者額</p>					
<p>兵舍具 炊事具</p>					
<p>〇〇八〇 〇〇六〇</p>					

一 分屯大隊ヲ有スル歩兵隊ニ八三百四十二圓、分屯高射砲隊ヲ有スル野砲兵隊ニ八百四十圓
 ヲ本表ノ本部定額ニ増加ス

- 二 新設増設ノ爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル聯隊ノ本部定額ハ未設ノ大隊本部一毎ニ六十四圓ヲ減シタル額トス
- 三 海外派遣等ノ爲全隊ヲ成ササル間ニ於ケル留守隊本部ニハ定額ヲ交付ス
- 四 師團經理部長ハ地方ノ状況等ヲ酌量シ師團長ノ認可ヲ受ケ本表ノ定額ト部隊数並ニ人馬数トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セサル範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 五 營外者ニハ炊事具ノ定額ヲ給セス
- 六 兵舎等ノ暖室装置ニシテ蒸氣式若ハペーチカ等固定式構造ニ変更ヲ生シタル場合ニ在リテハ其ノ装置ノ状況ニ應シ本表ノ定額ヲ減額ス

第五號

牛島

決行指定

次任官

決裁指定

永久

保存期限

成規類聚登錄

政務次官 參與官 同付 決裁後 連帶 課名 主、軍

決行(決裁)後 同覽 課名

永久甲 公行

受領番號 支那駐劄陸軍部隊給與令細則中改正ノ件

貳第身二一六九號

起元應(課)名

監查

大臣 委

次官

政務次官

參與官

高級副官

書記官

主務副官

官房御用掛

主務課員

主務局長

主務課長

主務局長 受領 昭和三十九年 月 日

連帶 局長

主務課長 受領 昭和三十九年 月 日

大臣 受領 昭和三十九年 月 日

決行(決裁)後 同覽 局長

主務課長

主務課長

監第九〇號

牛島

牛島

牛島

牛島

陸軍省 10.9.26 午後 主計課

陸軍省 10.9.19 衣箱

陸軍省 10.9.18

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

本橋

三三三

陸達第三十七號

支那駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

昭和十年十月二十日

陸達第三十七號

十月三十日

陸軍大臣

官報照合

第一條中「在外國公使館附武官」ヲ「在外國大使館附及公使館附陸軍武官」ニ改ム

第二條 傷痍疾病ノ爲支那ニ於テ入院若ハ療養ヲ爲ス軍人軍屬ノ俸給給料ハ時日ノ長短病症ノ等差ニ拘ラズ之ヲ減ズルコトナシ但シ傭人ニシテ特ニ規定（雇員傭人給料支給規則ヲ除ク）又ハ契約アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ者ニシテ入院、轉地療養等ノ爲本邦ニ還送セラレ又ハ歸還

スルトキハ本邦内ノ陸軍病院ニ入院スル者ニ在リテハ入院ノ日、
其ノ他ノ者ニ在リテハ本邦港灣上陸ノ日ヨリ一般給與ノ規定ニ依
ル

第十五條 准士官以上營外居住ノ下士以下及軍屬ハ俸給給料及在勤
加俸ノ全部又ハ一部ヲ本人ノ指定スル者ニ於テ受領スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル受領金ノ請求及支給手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル
第十七條中「傭役者」ヲ「傭人」ニ改メ同條第二項中「竝ニ從卒及
馬卒」ヲ「及馬丁」ニ改ム
第五表及第六表中「從卒馬卒」ヲ「馬丁」ニ改ム
被服科 陸軍傭人被服

改正理由

第一條ハ在支那帝國公使館ノ昇格ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル

第二條ハ明治四十五年陸普第二五九九號ヲ廢シ本細則ニ統合スルヲ
適當トスルニ由ル

第十五條ハ昭和九年陸滿普第一七三二號ノ制定ニ伴ヒ同通牒ニ據ラ
シムルヲ適當トスルニ由ル

第十七條、第五表及第六表ハ從卒代用者ヲ削除シ其ノ他字句ヲ修正
スルノ要アルニ由ル

支那駐劄陸軍部隊給與令細則中改正案新舊對照

(削除) 朱書 新加

第一條 本令第三條ノ在勤加俸ハ(在外國公使館附武
官)在外國大使館附及公使館附陸軍武官兼勤
ヲ命セラレ同武官俸給令ニ依リ在勤俸ヲ受クル期
間之ヲ停止ス

營外居住下士以下、判任文官及判任待遇者ノ
在勤加俸ハ第七表ニ依ル

第一項ノ外在勤加俸ノ支給法ハ朝鮮滿洲駐劄
陸軍部隊給與令細則第十一條及第十二條ヲ準用ス

第二條 (削除) 傷痍疾病ノ爲支那ニ於テ入院若
ハ療養ヲ爲ス軍人軍屬ノ俸給給料ハ時日ノ長

短病症ノ等差ニ拘ラズ之ヲ減ズルコトナシ但シ傭人
ニシテ特ニ規定（雇員傭人給料支給規則ヲ除ク）
又ハ契約アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ者ニシテ入院、轉地療養等ノ爲本邦ニ還送
セラレ又ハ歸還スルトキハ本邦内ノ陸軍病院ニ入院
スル者ニ在リテハ入院ノ日、其ノ他ノ者ニ在リテハ本邦
港灣上陸ノ日ヨリ一般給與ノ規定ニ依ル

第十五條（軍人軍屬ノ俸給、給料ハ其ノ全額又ハ幾
分ヲ留守宅ニ於テ受領スルコトヲ得此ノ場合ニ
於テハ陸軍戰時給與規則細則第十二條乃至第
十四條ニ準ス）

准士官以上營外居住ノ下士以下及軍屬ハ俸給
給料及在勤加俸ノ全部又ハ一部ヲ本人ノ指定
スル者ニ於テ受領スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル受領金ノ請求及支給手續ハ
別ニ定ムル所ニ依ル

第十七條 雇員、(傭役者)傭人編制表ニ掲クル者並ニハ第五
條ノ區分ニ依リ糧食ヲ給シ且必要ニ應シ官舎ヲ
貸與スルコトヲ得

前項ノ(傭役者)傭人中蹄鐵工(竝ニ從卒馬卒)
及馬丁代用者ニハ第五表ノ被服料ヲ本人ニ給
シ第六表ノ被服ヲ新調保續セシム

前項ノ者内地支那等ノ間交互相轉スルトキ其ノ
被服料ノ保續期間ハ之ヲ通算スルモノトス

第五表 被服料

區	別	
	甲	乙
蹄鐵工、(從卒馬卒)馬丁代用者	五十圓	二十三圓
備初テ備入ノトキハ甲額ヲ給シテ新調セシメ爾後備入ノ翌月		
考一日ヨリ起算シ滿一年毎ニ乙額ヲ給ス		

第六表

陸軍傭人被服

蹄鐵工、(從卒馬卒)馬丁代用者

品

目

帽

一箇

冬

衣

袴

一組

日

覆

一箇

夏

衣

袴

一組

外

套

一箇

陸達第 號

臺灣駐劄陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

昭和 年 月 日

陸軍大臣

第四條 營外居住ノ下士官以下ヲ宿舍其ノ他ノ關係ニ因リ營内ニ居住セシムル場合ニ在リテ其ノ給與ハ總テ營外居住ノ例ニ依ル

第二十三條 削除

第二十七條及第二十八條中「傭役者」ヲ「傭人」ニ改ム

第一表中 ^{在勤加俸}「
一、二等兵
同級兵

一、二等兵
同級兵

一、二等兵
同級候補生

ニ改ム

第十表 ^{添附被服}（其ノ一）飛行聯隊ノ行中「二九九」ヲ「三六九」ニ改ム

保存期限	決裁指定	執行指定
------	------	------

政務次官
參與官
回付
決裁
前連帶
後課名

房官臣大		課局務主		大臣	件名	番受 號領
了結	領受	出提	領受			
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日			
(裁決)行決 覽回後		帶連		局長	政務 次官	
局長		局長				
長課		長課		主務 課長	參與 官	
				主務 課員	書記 官	起元應(課)名
				主務 副官 <small>官房御用掛 計掛</small>		
					審案 筆者	

執行(決裁)後
回覽課名

陸達第三十五號

臺灣駐劄陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

昭和十年 十月三十日

陸達第三十五號

十月三十日

陸軍大臣

官報照合

第四條 營外居住ノ下士官以下ヲ宿舍其ノ他ノ關係ニ依リ營内ニ居住セシムル場合ニ在リテモ其ノ給與ハ總テ營外居住ノ例ニ依ル

第二十三條 削除

第二十七條及第二十八條中「備役者」ヲ「備人」ニ改ム

第一表在勤加俸中

一、二等兵
同級兵

ヲ

一、二等兵
同級兵
幹部候補生

ニ改ム
同表備

考第五號ノ前ル

第十表備附被服（其ノ一）飛行聯隊ノ行中「二九九」ヲ「三六九」

ニ改ム

第十表備附被服（其ノ二）飛行聯隊ノ行中「五〇」ヲ「五五」ニ、

「一四」ヲ「一七」ニ、「四」ヲ「七」ニ、「二六」ヲ「三一」ニ

改ム

第十五表消耗品料備考第四號中「當該長官」ヲ「軍司令官」ニ改ム

第十七表陣營具永續料備考ニ左ノ一號ヲ加フ

四 經理部長ハ地方ノ狀況等ヲ酌量シ軍司令官ノ認可ヲ受ケ本表ノ

定額ト部隊數^及人馬數トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セサル

範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテ

對照ハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告スベシ

本表ハ昭和十年附則一則以テ改定スルニ付テハ其ノ定額ハ本表ノ定額ニ依リ算出スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテ

本達ハ昭和十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第十表備附被服（其ノ一）及第十表備附被服（其ノ二）ノ改正規定ハ當該部隊ノ編制改正著手ノ日ヨリ之ヲ施行ス

式ノ改正ノ理由由リニ附シ其出スルハ編制改正ノ趣旨ニ依リテ

第四條ハ字句ヲ修正スルノ要アルニ由ル

第二十三條ハ第二條ノ規定アルニ依リ特ニ規定スルノ要ナキニ由ル

第二十七條及第二十八條ハ字句ヲ修正スルニ適當トスルニ由ル

第一表ハ幹部候補生ニモ在勤加俸ヲ支給スルノ要アルニ由ル

第八表及第十表ハ昭和十年軍令陸乙第二號平時編制ノ改定ニ伴ヒ改

正ノ要アルニ由ル

第十五表ハ字句ヲ修正スルノ要アルニ由ル

第十七表ハ消耗品同様定額増減ヲ經理部長ニ委スヲ適當トスルニ由ル

陸
軍

臺灣駐劄陸軍部隊給與規則細則新舊對照

第四條 (隊附下士官ニシテ營外居住アリシ者ヲ宿舍其ノ他ノ關係ニ依リ營内ニ居住セシムルトキ其ノ給料ハ舊ニ

依ル)

第二十營外居住ノ下士官以下ヲ宿舍其ノ他ノ關係ニ由リ

營内ニ居住セシムル場合ニ在リテ其ノ給與ハ總テ營外居

住ノ例ニ依ル

第二十三條 (本細則第二條ハ雇員傭役者ニ之ヲ準用ス)

臺法軍制除ハ通對並聖等非常ノ場合ニ在リテモ

第二十七條 (雇員及傭役者)傭人ノ糧食ハ自辨トス但シ

軍屬タル雇員及傭役者)傭人ニハ匪徒鎮壓ノ行軍

演習其ノ他必要ノ場合ニ限リ當該部隊ノ下士官以
下ニ準シ糧食ヲ官給スルコトヲ得

臺灣軍司令官ハ匪徒鎮壓等非常ノ場合ニ在リテ必要
ナルトキハ陸軍戰時給與規則細則第一表ノ定額以内
ニ於テ軍人軍屬以外ノ者ニ糧食ヲ給シ又ハ部隊長ニ委
任シテ之ヲ給セシムルコトヲ得

第二十八條 陸軍監獄看守、陸軍警査及(傭役者)傭人
傭員傭人給料支給規則ニハ第十四表ノ被服料ヲ給ス
傭給表ニ掲フル者ニ限ル

軍目録 新編ノ中ニミテ部ノ中ニ在リテ其ノ部ニ
屬スル者ニ限リテ其ノ部ノ中ニ在リテ其ノ部ニ

第一表 在勤加俸

區	分	月額	區	分	月額	區	分	月額
將官、同相當官 高等文官 奏任待遇者	俸給月額十分、四	管	曹長	一等	二、三、四、五、六	曹長	一等	二、三、四、五
准士官 員備月給百餘圓 百十五圓以下	俸給、給料 月額十分、六	住	諸官勤務 上等兵 同級兵	二等	三、五、七	住	諸官勤務 上等兵 同級兵	一、二、三、四
考	備	省	略	考	備	省	略	考

第十表 備給加俸 (其(一))

第十表 備附被服 (其二)

省路

第十表 備附被服 料	憲兵隊								
	飛行聯隊	五 五〇	一 一四						
	重砲兵大隊			三					
	步兵聯隊				四 五		天		
						五 五			
						二 天			
							三	天	三

第十五表 消耗品料

省 略

考	備			
	五	六	七	八
	<p>經理部長ハ地方ノ狀況等ヲ酌量シ(當該長官)軍司令官ノ認可ヲ受テ本表ノ定額ト部隊數並ニ人員數トニ依リ算出スル總額ヲ超過セザル範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ増減スルニテ得此場合ニ在リテハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告スル</p>			
第十表 薪 給 俸 給 (其ノ二)				

第十七表 陣營具永續料

省 略

備	考
<p>一 營外者ニハ炊事具ノ定額ヲ給セス</p>	<p>二 經理部長ハ地方ノ狀況等ヲ酌量シ軍司令官ノ認可ヲ受ケ本表ノ定額ト部隊 数並ニ人員数トニ依リ算出シタル總額ヲ超過セサル範圍ニ於テ各部隊ノ定額ヲ增 減スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ定額ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ</p>

副官ヨリ陸軍一般へ通牒

今般陸達第三十四號及同第三十七號ヲ以テ陸軍給與令細則及支那駐
劄陸軍部隊給與令細則中改正セラレタルニ件ヒ左記通牒ハ自然消滅
シタル儀ト承知相成度

記

陸軍第六二五三號 昭和十年十月卅一日

一大正十一年陸普第一七五七號 定員内ヨリ他部隊ニ編入派遣者位

定員外者ニ對スル被服費定額増減

ニ關スル件

一明治四十五年陸普第二五九九號 清國駐劄部隊入院患者ノ俸給給

與ノ件

衣糧

陸

陸軍第一九〇二號

陸軍 昭和拾年十月三日 午前六時

陸軍

營內居住下士以下被服所持定数一時増加
關スル件 申請

昭和拾年拾月廿四日

第七師團長 宇佐美興屋

陸軍大臣 川島義之殿

軍隊經理規定第卅條ニ依リ營内居住下士以下被服所持定数表中當分ノ間左記品種第三裝ニ各一増加方認可相成度

事由 當師團ノ滿洲派遣帰還ノ關係上下裝被服

激増シ上裝被服減少シタルニ未タ一部ノ補充急復旧

シ受ケタルニ止リ新品ヨリノ繰下ハ努力メテ之ヲ避ケルト共ニ

下裝品ノ愛護運用ヲ為スノ必要切ナルモアリ之ヲ為

ニ下裝在庫品ニシテ廢品(代用作業衣袴共)ニ至ラサルモ

外出其他威容ヲ必要トスル場合ノ使用ニ適セル中間裝品

10.12.30 衣糧課

ヲ增加供用シテ經濟的運用ヲ爲スノ要ナルニ因ル

軍帽、軍衣袴、編上靴

左

靴